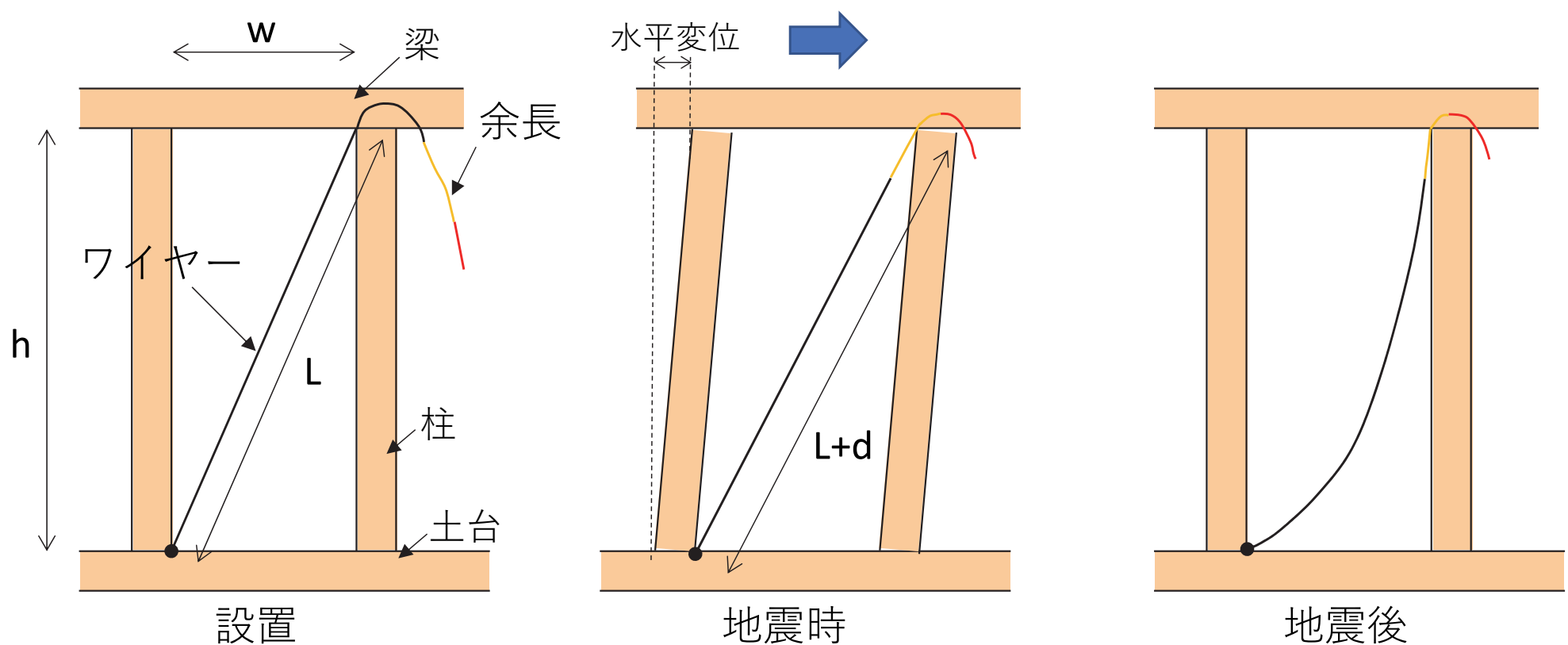


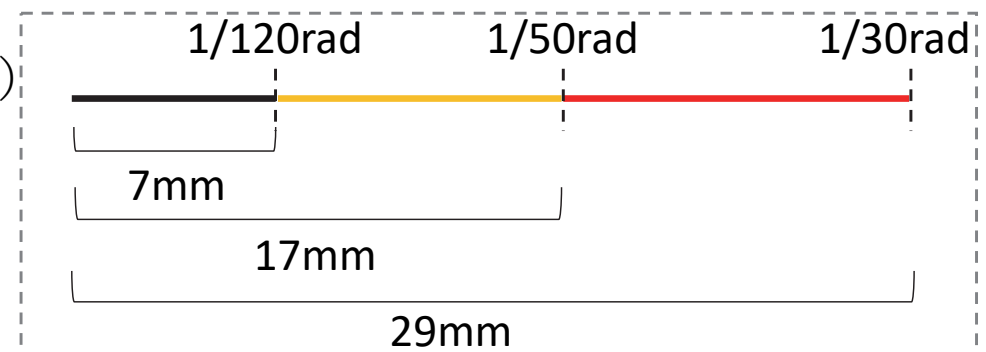


木造住宅の軸組の対角線上にワイヤーを設置。（対角距離を $L(\text{mm})$ とする。）
 片方は柱か土台にアンカーし、もう片方は梁などに開けた穴を通して室内に出しておく。
 地震時に柱が傾いて対角距離が $L+d(\text{mm})$ になると、ワイヤーが $d(\text{mm})$ だけ引き込まれる。
 余長の長さ（色）より、対角距離の最大変位が分かるので、水平変位に換算できる。
 対角距離（水平変位）から、躯体の損傷度や残存剛性を判定できる。

（木造住宅は、最大水平変位によって躯体の損傷度や剛性を推定できることが分かっている。）

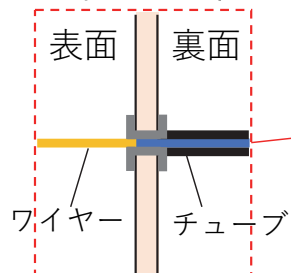


余長の色分けの例

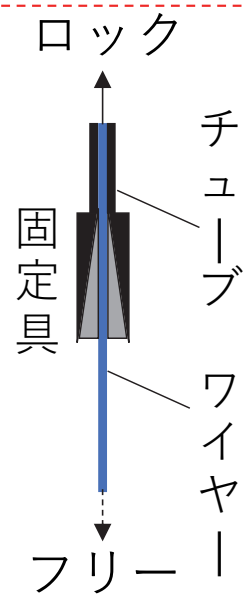
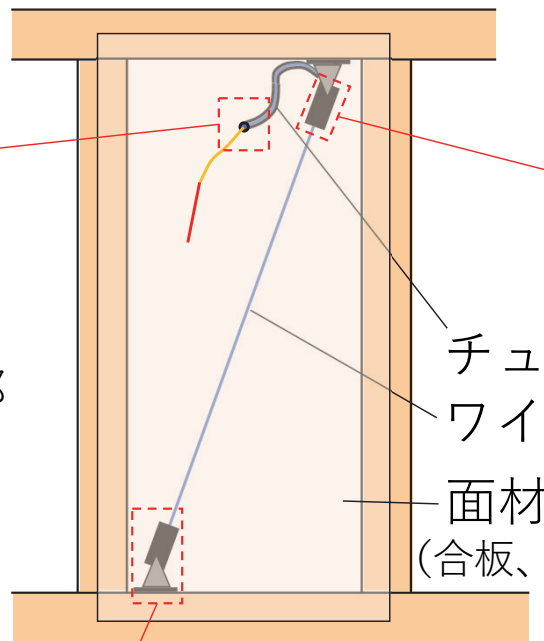


$w=805\text{mm}$, $h=2800\text{mm}$ のときの例

面材の断面



面材の裏面とチューブの端部を固定。ワイヤーだけ面材を通す。



引張に対してはフリーだが逆方向はロックする。一方方向にしかワイヤーがずれない。

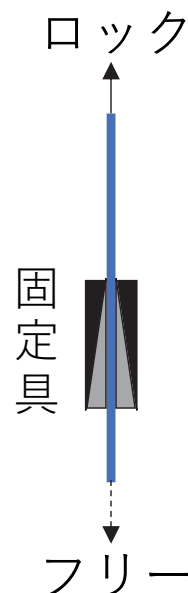
固定具と面材の間のワイヤーにはゴムチューブをかぶせる。
(例:自転車のブレーキワイヤー)

地震時には面材が回転するが面材から出るワイヤーの長さには影響しない。

ワイヤー固定具の例

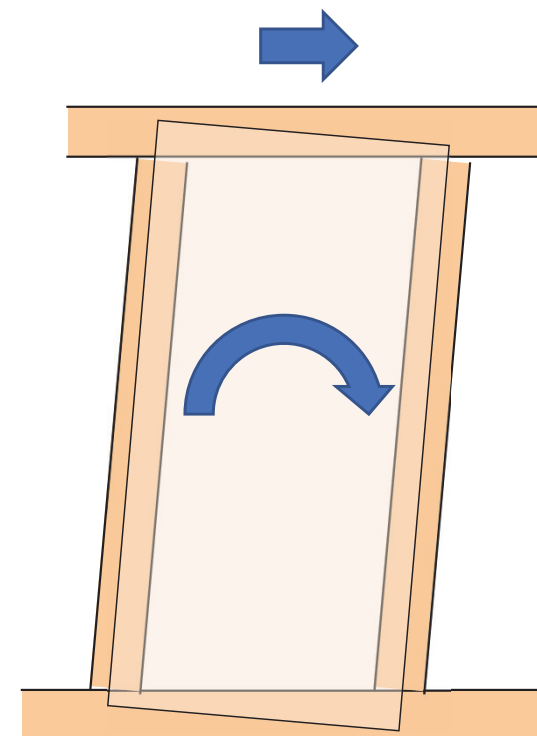


モノタロウ
63038843_TSF-30B



引張に対してはロックするが逆方向にはフリー

設置後はフリーの方向に引張り、ワイヤーを張った状態にする。



面材の回転 (地震時)